

小学校国語科における指導改善のポイント

奈良県教育委員会事務局学校教育課

指導主事 川西 聡弘

E-mail : kawanishi-toshihiro@office.pref.nara.lg.jp

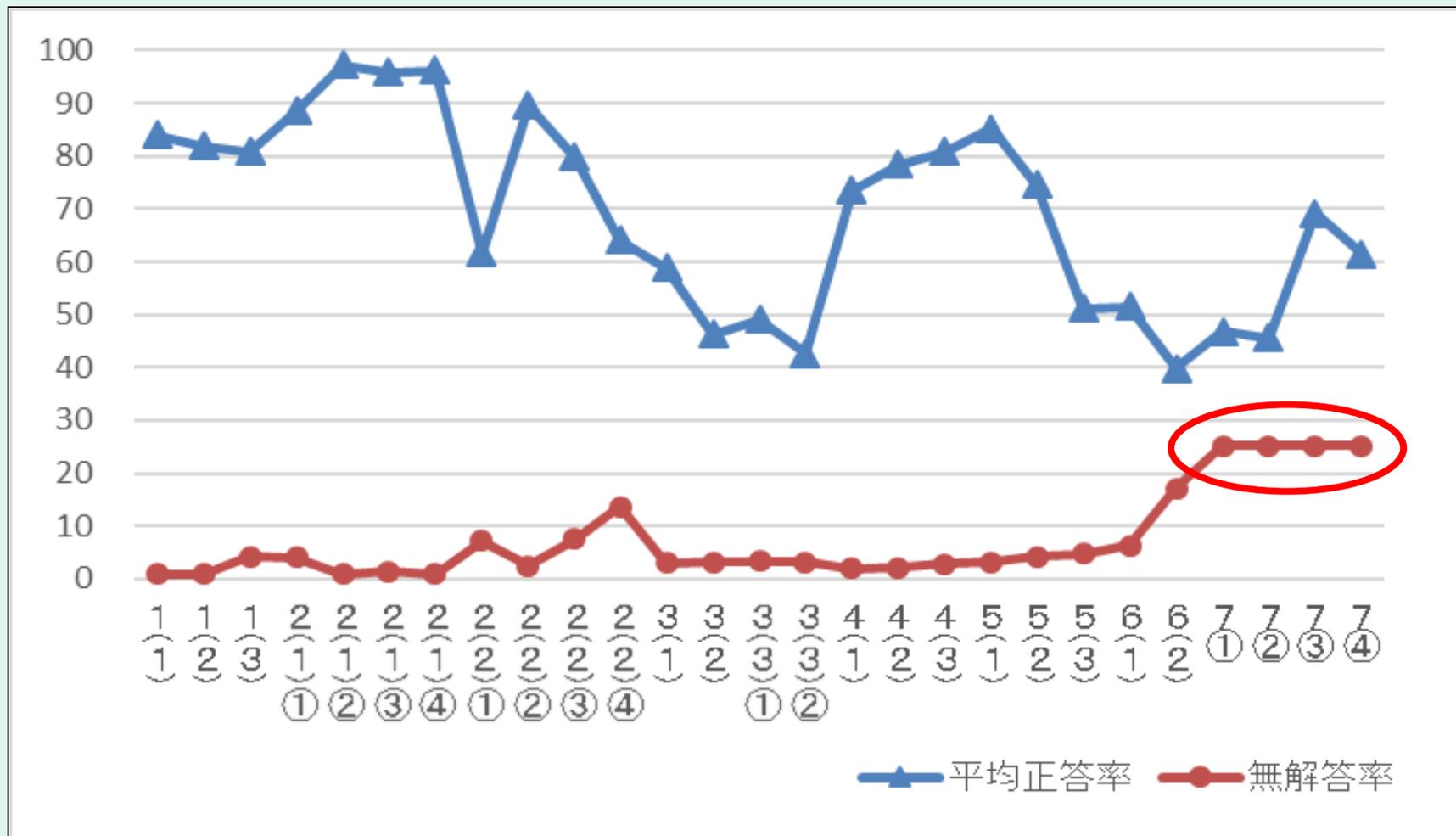
本日の内容

1. 奈良県の調査結果とその特徴について
 - ・ 無解答率から見える児童の姿
2. 指導改善のポイント
 - ・ 報告書及び授業アイデア例の活用
3. 児童の資質・能力の定着のために
 - ・ 国語科をはじめ全ての教科における言語活動の充実

1. 奈良県の調査結果とその特徴について

○無解答率について

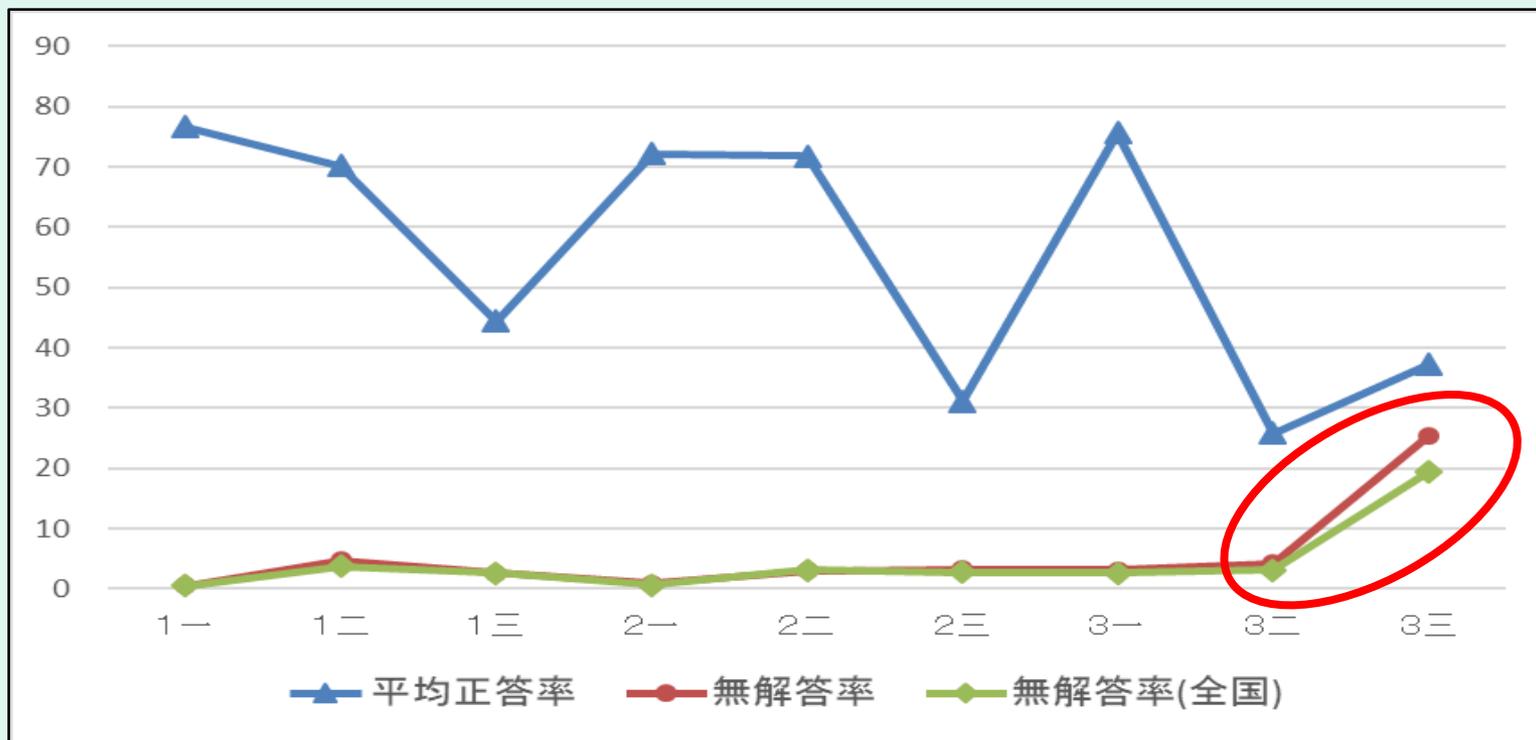
奈良県学力・学習状況調査 平均正答率と無解答率



1. 奈良県の調査結果とその特徴について

○無解答率について

全国学力・学習状況調査 小学校国語B 平均正答率と無解答率

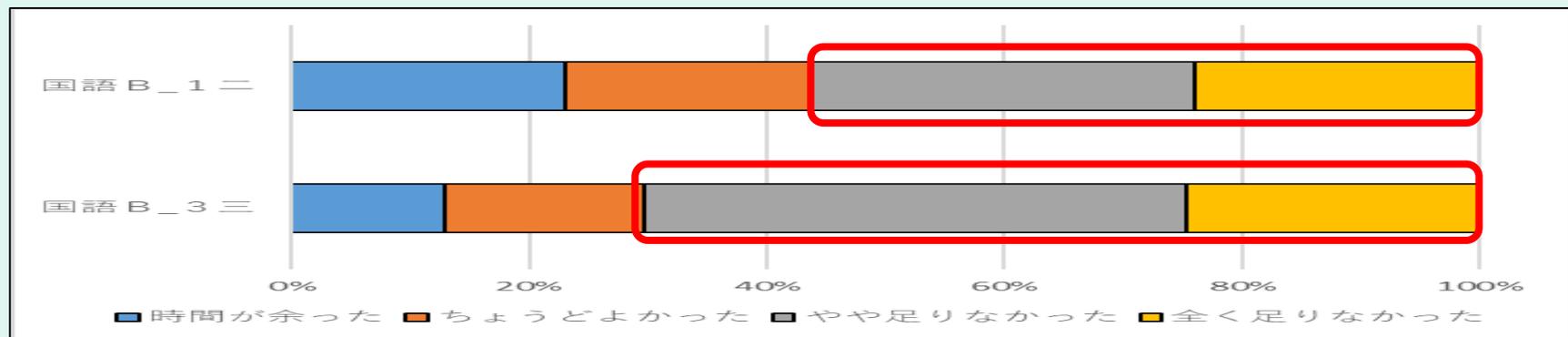
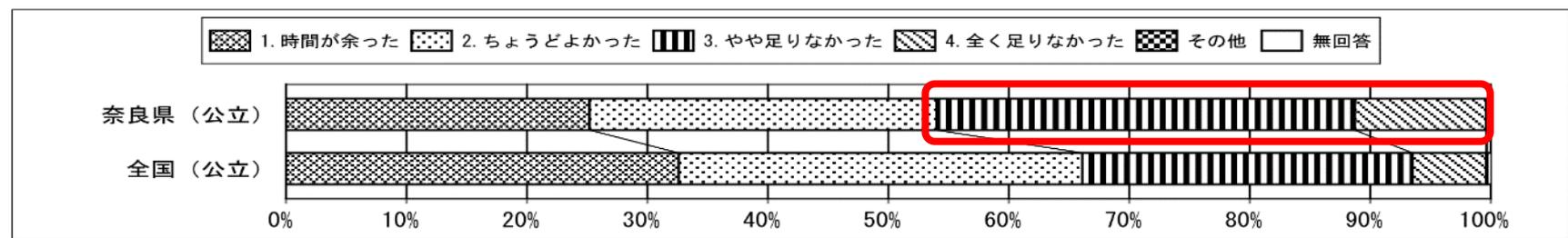


小学生について、後半の設問になるにしたがって、全国平均と比べて無解答率が増える傾向が見られる。

1. 奈良県の調査結果とその特徴について

○無解答率について

〈解答時間は十分であったか(国語B)〉



各設問に無解答であった児童のうち、解答時間が不足している児童が半数以上を占めている。

児童のこの実態から、今後どのような取組が必要なのか、どのような指導の改善が図れるのかを考える必要がある。

2. 指導改善のポイント

○無解答率について

Q. 解答時間が不足する児童を少なくするために、国語科の学習の中でどのような取組ができるでしょうか。

A.

例えば…

A.

報告書の活用

解答類型と反応率

国語A① 学級文集のタイトルを決める

1. 1と解答しているもの
2. 2と解答しているもの
3. 3と解答しているもの
4. 4と解答しているもの
9. 上記以外の解答
0. 無解答

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	1	7.2	◎
	2	6.3	
	3	69.3	
	4	17.0	
	9	0.0	
	0	0.1	

出題の趣旨

互いの語を聞き、お互いの共通点や相違点を表現しながら、互行に沿って話し合うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

【第3学年及び第4学年】「A」話すこと・聞くこと

- ① 互いの意見を正確に受け止めたり、自分の意見を述べたりしながら、互行に沿って話し合うこと。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

【第3学年及び第4学年】「A」話すこと・聞くこと

- イ 学級全体で話し合ったり意見をまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

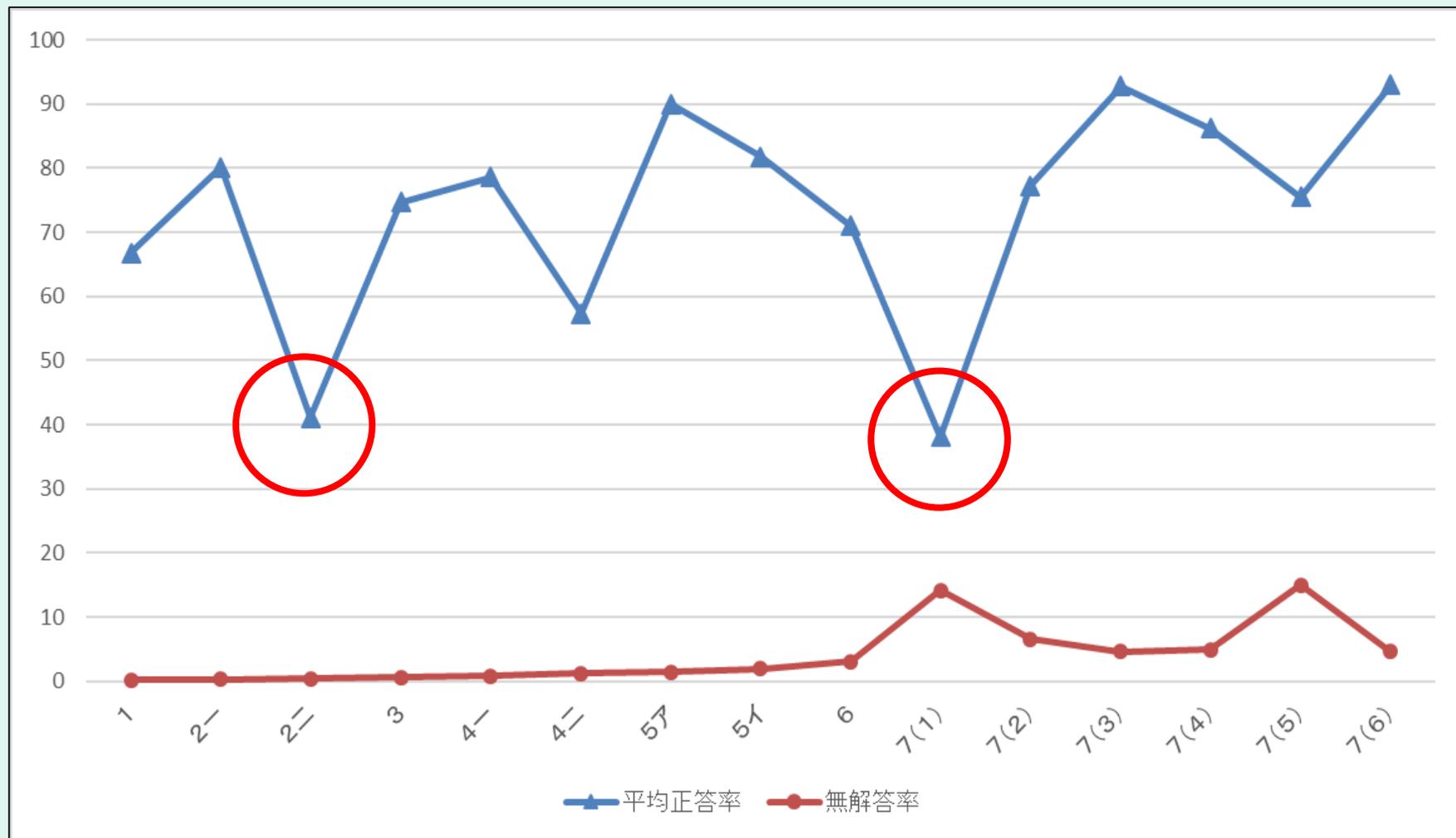
解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	1	7.2	◎
	2	6.3	
	3	69.3	
	4	17.0	
	9	0.0	
	0	0.1	

(平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語)

2. 指導改善のポイント

全国学力・学習状況調査 小学校国語A 平均正答率と無解答率



A 7 漢字を読んだり書いたりする

4年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

1 日時 2月19日（月）～2月22日（木）
10時25分から10時45分まで

2 集合場所
多目的ルーム



3 参加 たいしょう
(1) 4年生の きぼう者
(2)

A 7 漢字を読んだり書いたりする

報告書 〈解答類型〉

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
(1)	1 「対象」と解答しているもの	(奈) 38.1 42.3	◎
	2 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「照」と解答しているもの	3.1	
	3 「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの	(奈) 23.1 24.1	
	4 「たい」を「対」と解答していないが、「しょう」を「象」と解答しているもの	1.8	
	9 上記以外の解答	(奈) 19.6 18.1	
	0 無解答	10.6	

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものです。正誤だけでなく、児童生徒一人一人の誤答の状況(どこでつまづいているのか)等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

(報告書 20ページ)

A 7 漢字を読んだり書いたりする

出題の趣旨 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする
〔第5・6学年 伝国(1) ウ(ア)〕

指導改善のポイント

- ◇ 学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導する。
- ◇ 同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付けることができるように指導する。
- ◇ 国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる学習を習慣付け、語彙を広げながら正しく適切に漢字を書くことができるように指導する。

→ 指導例 報告書50ページ

A 7 漢字を読んだり書いたりする

報告書 指導例

報告書 50ページ

- 1 「計る」「量る」「測る」などの同音異義語の例を示し、その他の同音異義語を教科書などから探す
- 2 探した同音異義語の意味や使い方を整理して、次のようなカードにまとめる

カードの表(意味や使い方・解答)

【収める】

「きちんと中に入れる。よい結果をあげる。」

(勝利を収める)

【治める】

「政治を行う。」(領地を治める)

【納める】

「お金や物を、受けとる人にわたす。きちんと入れてしまう。」

(税金を納める)

カードの裏(問題)

「おさめる」

【治める】【納める】【収める】

○ 正しい漢字を選んで書きましょう。

運動会で勝利をおさめる。

との様が領地をおさめる。

国民は税金をおさめる。

- 3 作成したカードをもとに、グループで裏面の問題を出し合い、同音異義語の使い分けについて考える

報告書の活用

設問三
読み

物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容
 【第5学年及び第6学年】 C 読むこと
 ニ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
 【第5学年及び第6学年】 B 書くこと
 ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

解答類型と反応率

解答類型	記	率	率	率	率
出	二				
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
0					

出題の趣旨

物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

■学習指導要領における領域・内容
 【第5学年及び第6学年】 C 読むこと
 ニ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
 【第5学年及び第6学年】 B 書くこと
 ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

2. 指導改善のポイント

B3 物語を読んで、感想を伝え合う（あまんきみこ「きつねの写真」）

設問三 趣旨 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる〔第5・6学年 C エ〕

【物語の一部】から取り上げた言葉や文をもとに、松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えたわけを書く。

〈条件〉

- ① の横山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書く。
- ② 取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書く。

正答率

全国
43.9%

奈良県
37.2%

- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。
- 取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書くこと。
- の横山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 〈条件〉

三 「話し合いの様子の一部」の中の B のところで、田中さんは、「物語の一部」の言葉や文を取り上げながら、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを話しています。あなたが田中さんならどのようなわけを話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

B3 物語を読んで、感想を伝え合う（あまんきみこ「きつねの写真」）

指導改善のポイント

- ◇ 自分にとって心に響いた叙述を、登場人物の行動、会話、心情、相互関係、場面についての描写などに着目して見付けることができるように指導する。
- ◇ 一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の叙述を相互に関係付けながら読むことができるように指導する。
- ◇ 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になるということを見童が実感できるように指導する。

B3 物語を読んで、感想を伝え合う（あまんきみこ「きつねの写真」）

授業アイデア例

心に響いた物語を推薦しよう（全7時間）

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

物語の魅力「すいせんカード」にまとめる

第二次

第三次

① 教師の提示した「すいせんカード」を基に、物語の魅力を見付ける視点を捉え、学習計画を立てる。

②③ 「きつねの写真」の魅力について話し合い、推薦理由を明らかにする。

④ 「すいせんカード」を書く。

⑤⑥ 自分が選んだ物語の魅力について考え、推薦理由を明らかにする。

⑦ 「すいせんカード」を書く。

■ 今までに読んだ物語の魅力を想起したり、教師のモデルを参考にしたりするなどして、登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など物語の魅力を見付けるための視点を捉えることができるようにする。

■ 「きつねの写真」の中で、一番心に響いた場面や叙述を選び、その理由を伝えることで、互いの考えを交流することができるようにする。

■ 互いの考えの共通点や相違点を記録し、「すいせんカード」に生かすことができるようにする。

■ 「きつねの写真」で学習したことを確認することで、自分が選んだ物語の推薦理由を考えることができるようにする。

■ 推薦理由について、悩んでいることなどを中心に、友達と交流し、自分が選んだ物語の推薦理由を明確にすることができるようにする。

関連する本を教室に常備し、児童がいつでも読むことができるように工夫することが大切です。また、児童の実態や付けたい力に適した本を、地域の図書館等と連携を図り、選書することが重要な教材研究となります。

学習後は各自が選んだ本に「すいせんカード」を添えて、学校図書館等に展示することで、児童が、目的をもって読むことができるようにすることが大切です。



「すいせんカード」の例

きつねの写真

あまんきみこ 作

あらすじ

一番心に響いた場面や叙述

推薦の文章（推薦理由）

2. 指導改善のポイント

B3 物語を読んで、感想を伝え合う（あまんきみこ「きつねの写真」）

第二次②③／7 心に響いた場面や叙述とその理由について交流する

文章の中から、心に響いた場面や叙述を見付け、その理由を考える



Aさん

「あたりの木がいっせいにざざっと…」というところが不思議な感じがして、心に響いたよ。ここをこの物語の魅力として推薦したいんだけど、不思議なところはほかにもあるかもしれない。友達の考えも聞いてみよう。

グループで交流し、自分の考えを明確にする



Aさん

「きつねの写真」の不思議なところを推薦しようと思っているんだけど…。

どこから不思議だと思ったの。



Bさん



Aさん

「あたりの木がいっせいにざざっと…」というところから、木が葉をゆすってとび吉を呼ぶなんて不思議な感じがすると思ったんだ。ほかにもあるかな。

「まるでまっていたように…」というところも、林の中に戻っていったはずの松ぞうじいさんが急に現れたから不思議だと思ったよ。



Cさん

そうか、Aさんは情景を、Cさんは登場人物の行動を基に考えたんだね。不思議な感じがする表現は物語全体に広がっているんだね。



Bさん



Aさん

みんなの考えを聞いて、不思議なところが魅力だという推薦の理由がはっきりしてきたよ。もう一度この物語を読んで確かめてみるね。

心に響いた場面や叙述とその理由を明確にするために…

- 心に響く叙述を見付ける
 - ・ 登場人物の行動、会話、心情、相互関係
 - ・ 場面についての描写 など
- 複数の場面の叙述を相互に関係付ける
- 自分の知識や経験、読書体験などと結び付ける など

交流を通して、自分の考えを明確にするために…

- 「自分の考えをより確かなものにしたい」、「ほかにもあるかもしれないから聞いてみたい」など、何のために交流するのかを児童が実感できるようにします。
- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを、児童が自覚することができるようにします。
- 自分の考えや交流したことをノートにメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、推薦の文章を書く際に活用できるようにします。
- 第三次で、自分が選んだ物語の魅力について交流する際は、次のような交流が考えられます。
 - ・ 同じ物語を選んだ児童同士で交流することで、同じ物語でもいろいろな考えや、感じ方があることに気付くことができるようにする。
 - ・ 違う物語を選んだ児童同士で交流することで、自分の考えた魅力が物語の魅力の視点（登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など）に合っているか吟味することができるようにする。また、自分が選んだ物語と他の物語とを比較しながら考えをまとめることができるようにする。

B3 物語を読んで、感想を伝え合う（あまんきみこ「きつねの写真」）

〈教科書の教材を用いて〉

- ・ 「モチモチの木」（3年）
- ・ 「ゆうすげ村の小さな旅館」（3年）
- ・ 「ごんぎつね」（4年）



場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 [C読むこと ウ]

- ・ 「大造じいさんとがん」（5年）
- ・ 「海の命」（6年）

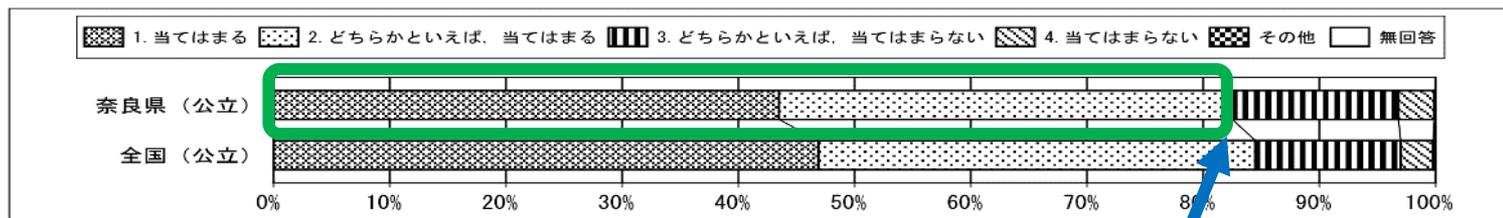


登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 [C読むこと ウ]

3. 児童の資質・能力の定着のために

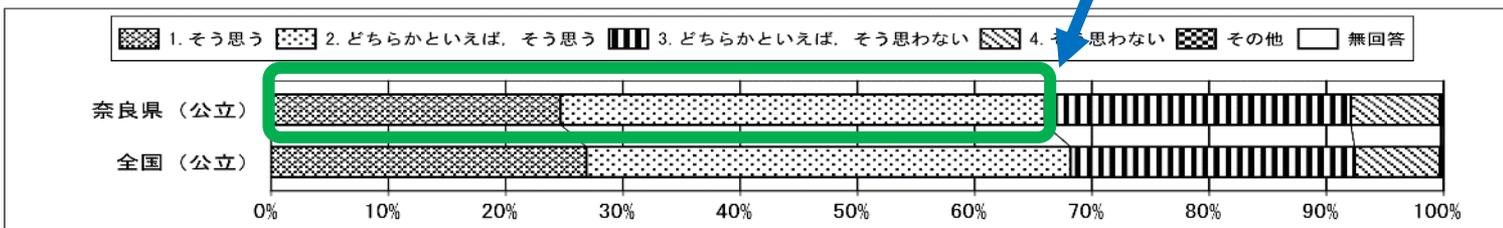
○ 全国学力・学習状況調査 児童質問紙調査結果から

質問番号	質問事項									
(57)	5年生までに受けた授業では、 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
奈良県（公立）	43.5	39.0	14.3	3.1					0.0	0.1
全国（公立）	46.9	37.6	12.5	2.8					0.0	0.1



奈良県
82.5%

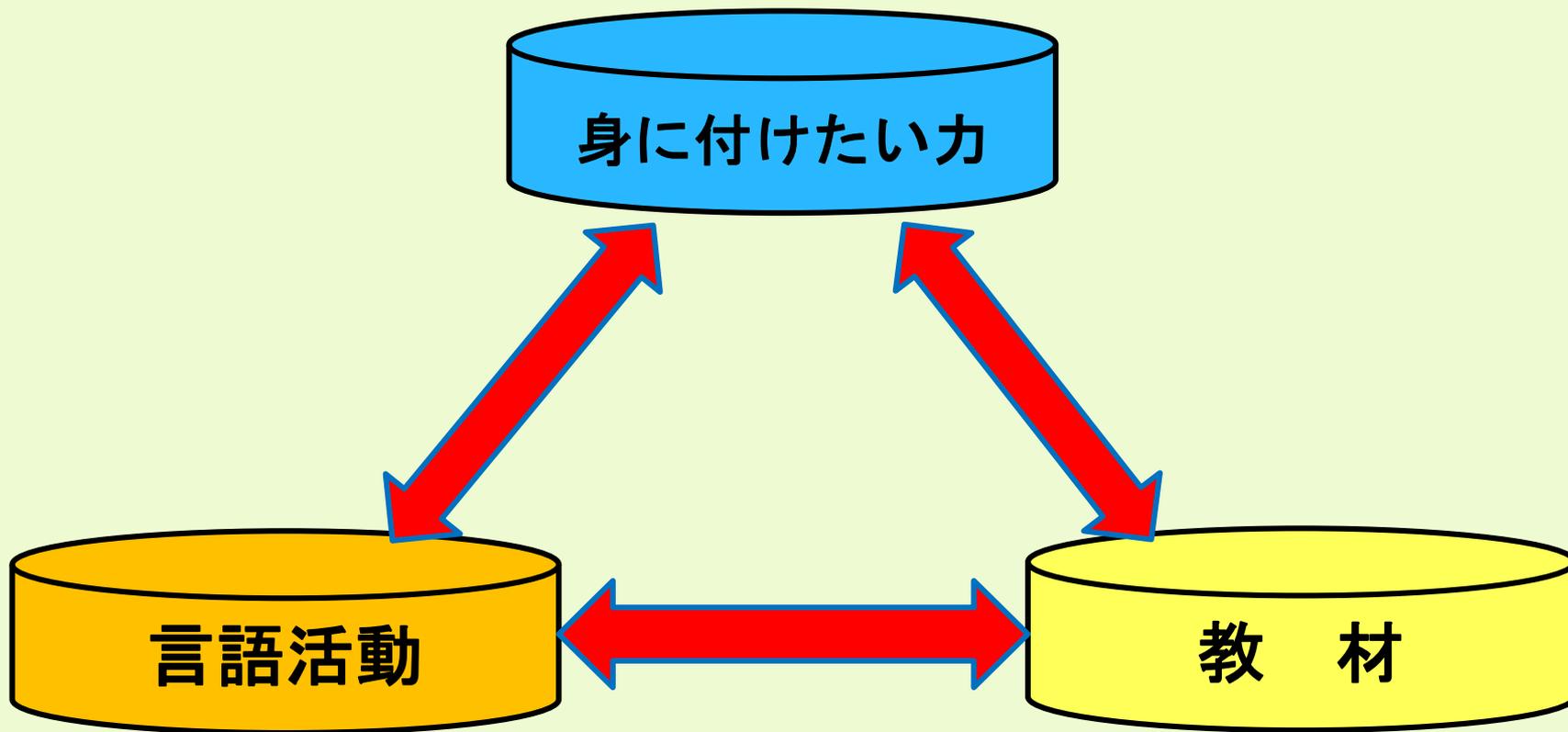
質問番号	質問事項									
(68)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
奈良県（公立）	24.7	41.3	26.1	7.6					0.1	0.2
全国（公立）	26.9	41.3	24.2	7.3					0.1	0.2



奈良県
66.0%

話し合う活動（言語活動）を通して、児童の考えを深めたり、広げたりすることを意識させるような授業を構想することが大切である。

単元を構想する上で重要な視点
～三者の有機的な関連付け～



〈国語科をはじめ、 全ての教科における言語活動の充実〉

言語能力の確実な育成

- ・発達段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(小中:国語)
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動(実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど)の充実(小中:総則、各教科等)

(小・中学校新学習指導要領より)

児童に育成を目指す資質・能力を定着させるため、

- 国語科で身に付けた資質・能力を、**各教科等で言語活動を通して**定着させる。
- 全ての教科等で、「この学習内容には、**どのような言語活動が効果的か**」を考えて実践する必要がある。

資料の活用の推進

○ 学校教育課Webページ「まなびー奈良」



全国各地の実践事例を見る
ことができます。
指導案は「国立教育政策研
究所」のWebページからダウ
ンロードできます。

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/
pdf/kokugo_eizo_siryo_data.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/kokugo_eizo_siryo_data.pdf)

○ DVD「小学校国語映像指導資料」

→各市町村教育委員会に配布済、複製可